

宿題の内容は、「gamagama の日記」にあるとおり以下のようなものです。

「個別の包括支援プラン更新行動を増加させる仕組みはどのようなものか」

A4 で 4,5 枚程度 (A4 の文字数は 1600 字)

1) 課題の概要

最終授業でお話ししたとおり、まず、現状の更新作業の仕組みについての「課題分析」(具体的な更新手続きの行動連鎖の実際)を記述した上で、この状況から、さらに更新行動を、それが正の強化を受ける自発的行動として増加させるには、どのような仕組みを作ればよいか、というのが主題です。

現状では、例えば半年に 1 回という風に点検更新時期が決まっているとすれば、それはそれ以上の更新は論理的にありえません。では「規則で年に 6 回に増やす」と決める、という回答もありえますが、今回の課題は、上限を決めずに、できるだけ多くの更新作業が自発されるような仕組みを考えてもらうということです。規則で回数を決定するのではなく、あくまで自発的に更新作業が行われる(そして行いやすい)状況を想定してください。

新しい仕組みについては、武藤先生からも補足があったように、現状の支援設定(援助、教授、援護いずれにしても)を改変する、すなわち少し進んだ状況設定を前提とした仕組みでもかまいません。「負の螺旋」に陥らないためにもそうした前進的な状況設定を想定することはむしろ必須かも知れません。そこに、学生ボランティアや学生ジョブコーチ、あるいは地域住人や企業家といった総合支援学校「外」のセクターの協力の可能性もあると思います。そのように周囲を巻き込んでいくことこそ、地域センターとしての総合支援校の役割として最も期待されるものでしょう。ただし、「こうあるべき」というただの夢の話ではなく、そうした新しい設定を恒久化するための具体的実行プランである必要があります。

2) 「仕組み」の記述方法

井上雅彦先生の授業において、対象生徒の行動成立にむけての課題分析というものが示されました(当日の資料参照)。課題分析とは、求められる課題に対して、その達成に向けての支援を容易にするために細かい行動連鎖にわたる作業です。本来、課題分析は、対象個人の行動遂行に寄り添いながら改変しつつけていく作業全体を指します。ここでは、学校での更新作業の流れそのものがスムーズに進行するための仕組みについて、架空の生徒事例を想定されてもよいですし、さらに、自分の行動を事例として、その支援活動を振り返り、どのような状況があれば更新作業を進んでおこなえるようになるか、という形で表現してください。

最後の授業で配付した学生ジョブコーチに関するレポートの中で、学生ジョブコーチの作業フローの図がありますが、これも粗い支援者の課題分析といえます。こうした例も参

考にしてください。ただし行動連鎖の羅列ではなく、全体の行動連鎖が継続的に自発されつづけるための機能分析（具体的に当該の行動の強化を設定）も考えて必要な手立てを考える必要があります。

3) 共通するミッション：

先生という支援者による個別包括支援プランの更新行動の増大プランを考えることは、FA 宣言をした生徒のキャリア・アップを考えることとまったく同じ構造を持った課題です。

授業の主な流れとしては、1) 未来を見据えた前進的な学校のありかた、2) 今、「できる」を見つけてそこを伸ばすという発想と方法（これは から×の発想ともいえます）3) 自己決定を成立させる状況、そして問題と思われる行動も一旦 として当事者の選択肢に含みこむ設定、4) 余暇活動の成立を通じて、当事者の好きなこと（正の強化で維持される行動の選択肢の拡大、といったコンテンツに、5) 脱ひきこもりの支援を通じた、「今できる」行動選択肢の創造と仲間強化の仕組み、という内容でした。これに加えて、記録の方法、包括支援プランの更新シミュレーションといった実務的作業についても紹介しました。

1) の学校の役割についていえば、今回のレポート課題は、その短期目標にもあたるものといえます。2) ~ 5) に含まれる支援の原則について、記録という行動のもたらず機能も加味して、支援者（教員）の個別包括支援プラン遂行行動を適用して、自らの行動についてのプランを考えてください。

4) レポートの評価方法

以上に記した、今回の教職 GP のコンテンツに含まれる「原則」を基本に、その応用として書いてください。個人的な印象や感想ではなく、このレポートに書かれた具体的アイデアがそのまま京都市での特別支援の方法に利用できるように、という趣旨で書いてください。このことも授業中に述べてきた「記録・報告の意味」という原則にのっとっていることは言うまでもありません。

この宿題レポートも、他の実践・研究にかかわる記録・報告と同様に、機能を付託された社会的行動であることを忘れずに。

というわけで、評価は、授業中に示した原則を盛り込んでいること、そして、特別支援という事業の中で機能的でありうること、ということが基準となります。

とりあえず、いじよ。

5) 現役院生の諸君へ

今回の宿題は、総合支援学校における支援者の行動を対象としています。学校の様子がさっぱりわからないから難しいという悲鳴も聞こえてきていますが、授業中にだいたいどんな風になっているかは、グループで討論しているときにだいたいの想像がついていると思います。仮定としての現在を想定しつつ、自由に学校のシステムに対して第三者評価者になったつもりでカイゼン案を呈示してください。 いじよ。